令和4年度　環境部主要事業の概要について

使命	目標	現状と課題	令和4年度の主な取組内容	期待される効果
環境負荷の低減と自然との共生の確保	循環型社会の形成	●ごみ総排出量 ・令和3年度実績は約11万4千トンで，計画最終目標値（令和9年度）まで約1万4千トンの削減が必要 ・ごみ総排出量及び市民1人1日当たり排出量ともに横ばいで推移 ・特に2R（Reduce(発生抑制)，Reuse(再使用)）の更なる意識の醸成と定着に向けた取組の強化が必要 ・最新のごみ組成等のデータに基づく戦略的な減量化施策の実施が必要	●ごみの減量・資源化の推進　●安全・適正なごみ処理の推進とエネルギーの活用　●効率的・効果的なごみ処理の推進 ○ 安定したごみ収集運搬体制の維持 ■ごみ収集運搬費〔1,351,504千円〕 【ごみステーションに排出される家庭ごみの委託による収集運搬業務の実施（令和3年度と同様の体制で実施）】 ○ 災害廃棄物の適正かつ迅速な処理の検討 【旭川市災害廃棄物処理計画の改訂】 ○ 2R（発生抑制，再使用）の強化 ■ごみ減量アクション推進費〔1,366千円〕 ・食品ロス削減の取組 【家庭】（ポータルサイトを活用した取組） 市内飲食業従事者等による食品ロス削減レシピや取組を動画にして配信 家庭で実践している食品ロスの削減につながる工夫を市民から募集 【事業系】飲食店での食べきり実践のため，「3010運動」等について，POP（三角柱等）の設置による啓発及び関係団体と連携した事業系生ごみ減量化の取組 ・生ごみマイスター連絡会を活用した，地域での生ごみ堆肥化の推進 ・食品ロス削減推進計画の策定（R4年度末予定）	●家庭ごみの減量・資源化の推進 ・生ごみの減量・資源化意識が向上，可燃ごみ排出量を削減 ●効果的な施策の実施 ・最新のごみ組成等のデータに基づく，効果的な施策の実施
		●（仮称）旭川市リサイクルセンターの整備 ・令和6年度中の新施設供用開始を目指して取組を推進 ●近文清掃工場の再延命化 ・令和6年度からの再延命化工事着手を目指して取組を推進 ●次期一般廃棄物最終処分場の整備 ・現施設の埋立期限（令和12年3月）を見据えて取組を推進 ・令和3年度に決定した建設候補地周辺地域等への説明や協議を実施	○ごみ処理施設の整備更新 ■缶・びん等資源物中間処理施設整備費〔54,112千円〕 【実施設計及び当該設計に必要な地質調査を実施し，令和5年度早期から工事着手できるよう取組を推進】 ■（新）近文清掃工場基幹的設備改良事業費〔14,731千円〕 【近文清掃工場の設備等の現況を把握するための機能診断調査や施設の性能を保ちながら長寿命化を図る具体的な方策を整理する長寿命化総合計画の策定に着手】 ■次期最終処分場整備費〔460千円〕 【建設候補地の周辺地域や関係団体などへの説明や協議の実施】 ○ 現処理施設の維持管理（次期処理施設を整備するまで適切な維持管理） 【各処理施設を安定的に使用するため，施設保全計画等に基づく運転管理及び点検整備】	●安定的なごみ処理体制の維持 ・計画的な施設整備の実施 ・現処理施設の適切な維持管理 ・現処理施設の安全で安定した運転管理
		●生活排水処理 ・生活排水による公共用水域の水質汚濁防止及び公衆衛生の向上 ●環境センターの方向性整理 ・延命化期間終了後を見据えて，施設更新の方向性を整理	○ 合併浄化槽設置の推進 ■浄化槽設置整備費〔8,176千円〕 【公共下水道及び農業集落排水処理区域外で合併処理浄化槽を設置しようとする個人住宅に対して，設置費用の一部補助】 ○ 安定したし尿処理体制の維持 ■し尿処理費〔150,529千円〕　■環境センター管理費〔149,009千円〕 【委託による収集運搬業務の実施（令和3年度と同様の体制で実施），移動式公衆便所を貸出，環境センターの施設保全計画に基づく改修等】 ■環境センターの方向性整理 【今後の処理量見込み，施設や設備の老朽化状況，周辺町の意向などを踏まえ，施設更新の方向性の整理に着手】	●生活排水の適正処理 ・公共用水域の水質汚濁防止と公衆衛生の向上 ●安定的なし尿処理体制の維持 ・環境センターの適切な維持管理と安全で安定した運転管理 ・計画的な施設整備の実施
	脱炭素社会の形成	●温室効果ガス排出量 ・平成30年度実績は319万3千トンCO_2で，最終目標値（令和9年度）までに100万トンCO_2の削減が必要 ・本市で温室効果ガス排出割合の高い民生家庭部門での排出抑制が課題 ●旭川市地球温暖化対策実行計画の改定に向けた検討 ・国の地球温暖化対策計画の見直しに伴う本市計画の見直し	旭川市地球温暖化対策実行計画　旭川市気候変動適応計画 ●再生可能エネルギーの利用促進　●地球温暖化対策に係る市民意識の向上　●旭川市地球温暖化対策実行計画の見直し ○ 再生可能エネルギーの利用促進 ■地域エネルギー設備等導入促進費〔2,442千円〕，地域木質バイオマス利活用促進事業費〔3,210千円〕 【太陽光発電・コージェネレーションシステム・薪ストーブ等の導入補助・啓発，地域材の活用促進に向けた林業業界等と連携，市民ニーズ把握や情報提供】 ○ 地球温暖化対策の推進 ■地球温暖化対策推進費〔3,817千円〕 【小学校との連携（エコライフレポート），環境学習（出前講座，バスツアー等），市民意識の高揚（エコ通勤，省エネ等の推進），市制100年ゼロカーボンシティ旭川記念植樹，旭川グリーンアンバサダーによる普及啓発】 ○ 旭川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の見直しに着手	●地球温暖化対策の推進 ・再生可能エネルギー利用促進によるCO_2削減 ・市民の取組拡大による民生家庭部門の排出抑制推進
	安全で快適な生活環境の創出 自然共生社会の形成	●ごみステーションでの不適正排出 ・令和2年度実績で約5万1千袋あり，その抑制が必要 ●不法投棄 ・令和3年度実績で発見件数は328件あり，更なる抑制が必要	旭川市環境基本計画【第2次計画・改訂版】（第2版） ●外来種対策等による生物多様性の保全　●市民・事業者・地域との協働による清掃活動，不法投棄防止　●PCB使用製品の適正処理　●鳥獣対策　●公害対策 ■クリーンあさひかわ推進費〔1,779千円〕 【地域清掃活動の実施・ポイ捨て防止対策】 ■ごみステーション環境整備費〔985千円〕 【ごみ適正排出協力員制度の継続】 ■不法処理防止等推進費〔3,235千円〕 【車両パトロール及びボランティア協力員による監視・防止， 監視カメラ・啓発のぼり増設による未然防止対策， 不法投棄等防止パネル展の開催による適正処理意識の普及啓発， 不法投棄された廃棄物の早期回収による更なる投棄の抑制・拡大防止】	●市民との協働による快適な生活環境の実現 ・分別・適正排出が徹底されたごみステーションの実現 ・ポイ捨て防止による環境美化 ・不法投棄による生活環境悪化の防止
		●外来種の定着 ・特定外来生物及び北海道指定外来種による地域の生態系への影響 ①特定外来生物：アライグマ，ウチダザリガニ， オオハンゴンソウ，セイヨウオオマルハナバチ ②北海道指定外来種：アズマヒキガエル	○ 生物多様性の保全 ■生物多様性保全費〔7,340千円〕 【生物多様性保全推進協議会によるアライグマ捕獲，アズマヒキガエル捕獲サポーターなど市民参加型防除の推進，生物多様性セミナー等の啓発事業の実施】	●生物多様性の保全 ・外来種の増加抑制，生息域の拡大防止，在来種の保護
		●ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の適正処理 ・処理期限を経過（変圧器・コンデンサ：令和3年度末） ・処理期限が切迫（安定器：令和4年度末） ・処理期限経過後，不適正な処理・保管による環境汚染が発生する懸念 ●鳥獣対策 ・繁殖期のカラスや出没したヒグマによる人的被害の防止 ●環境汚染対策 ・大気，水質等の環境基準項目14項目中13項目を達成 （令和3年度実績，光化学オキシダント(Ox)のみ非達成）	○ 市民が安心できる生活環境の確保 ■PCB廃棄物の適正処理（事業費なし） 【立入検査・報告徴収による期限内処理の指導強化，関係機関との合同立入を実施（未処理事業者対象），訪問調査・含有確認の作業補助】 【処理期限を経過したPCB使用製品保管事業者に対する，粘り強い指導，場合によって行政処分(改善命令，代執行)】 ■鳥獣対策費〔8,040千円〕 【電気柵設置によるヒグマの市街地侵入抑制，ひぐまっぷ利用による情報発信強化，ヒグマ対策の専門家・警察・猟友会などの関係者を交えた協議会による対策の検討，遠隔操作型センサーカメラによるヒグマの行動監視】 ■公害監視測定費〔29,483千円〕 【市内4か所の測定局における大気汚染物質の常時監視，Ox等高濃度時の注意喚起， 発生源となる事業場からの排水及び排ガスの採取・分析及び基準超過した場合の改善指導】	●市民の安全・安心の確保 ・PCB廃棄物の期限内処理の推進 ・処理までの適正保管による環境汚染，健康被害の防止 ・鳥獣被害の防止 ・生活環境の保全と汚染物質による健康被害防止